

令和7年度 財務諸表の概要



愛媛大学

貸借対照表の概要

■貸借対照表とは

国立大学法人の財政状態について、決算日（令和8年3月31日）における全ての資産、負債及び純資産を示したものです。

貸借対照表【資産の部】

主な増減理由

（単位：百万円）

	令和6年度	令和7年度	増減額
土地	29,869	29,869	0
建物等	26,557	26,224	△ 332
工具器具備品	6,106	6,675	569
図書	5,150	5,133	△ 17
ソフトウェア	640	335	△ 305
現金及び預金	12,652	14,379	1,727
有価証券・長期性預金	3,125	3,047	△ 78
減価償却引当特定資産	109	109	0
未収附属病院収入	4,943	5,230	287
その他の未収入金	865	1,087	222
その他の資産	1,145	1,146	1
資産	91,161	93,235	2,074

医療機器等の導入による増加

減価償却による減少

補助金に係る未収入金の増加

※百万円未満四捨五入のため、合計は一致しない場合があります。

【資産の部について】

令和7年度末の資産合計は、前年度比20.7億円増の932.4億円となっています。

主な増加要因

- ・医療機器等の導入による資産の増加が5.7億円
- ・補助金に係る未収入金の増加が2.2億円



貸借対照表の概要

貸借対照表【負債の部】

主な増減理由

(単位：百万円)

	令和6年度	令和7年度	増減額
長期繰延補助金等	1,337	2,323	986
借入金	7,606	7,446	△ 160
運営費交付金債務	6	448	442
寄附金債務	5,256	5,413	157
前受受託研究費等	992	1,067	75
未払金	6,671	6,740	69
その他の負債	3,702	3,583	△ 119
負債：計	25,569	27,018	1,449

固定資産取得による増加

医療機器購入等に伴う未払金の増加

リース債務の減少

※百万円未満四捨五入のため、合計は一致しない場合があります。

【負債の部について】

令和7年度末の負債合計は、前年度比14.5億円増の270.2億円となっています。

主な増加要因

- 固定資産取得による長期繰延補助金等の増加が9.9億円



貸借対照表【純資産の部】

主な増減理由

(単位：百万円)

	令和6年度	令和7年度	増減額
資本金	35,965	35,965	0
資本剰余金	6,680	6,384	△ 296
前中期目標期間繰越積立金	10,397	10,397	0
目的積立金	600	733	133
積立金	11,697	11,697	0
当期末処分利益	253	1,041	788
純資産：計	65,592	66,217	625
負債・純資産	91,161	93,235	2,074

減価償却相当累計額の増加に伴う減少

利益処分による増加

損益計算書の当期総利益と一致します

※百万円未満四捨五入のため、合計は一致しない場合があります。

【純資産の部について】

令和7年度末の純資産合計は、前年度比6.3億円増の662.2億円となっています。

主な増加要因

- 利益処分による目的積立金の増加が1.3億円



損益計算書の概要

■損益計算書とは

一会計期間における国立大学法人の運営状況を示したものです。業務運営に要した費用、事業の実施や業務の実現に応じて計上する収益を示しています。

損益計算書

(単位：百万円)

主な増減理由

	令和6年度	令和7年度	増減額	
経常費用				
業務費	49,164	52,030	2,865	奨学費の増加
教育経費	2,237	2,793	556	
研究経費	2,137	2,026	△ 111	
診療経費	18,428	19,571	1,142	注射薬費、その他業務委託費の増加
教育研究支援経費	472	510	38	
受託研究・事業費等	2,003	2,432	429	受託研究費等の受入の増加
人件費	23,888	24,698	810	
一般管理費	1,109	1,071	△ 38	人事院勧告の準拠に伴う増加
財務費用等	60	64	4	
経常費用 計：	50,334	53,166	2,832	
経常収益				
運営費交付金収益	12,502	12,794	292	患者数の増加及び高額医薬品適用の増加
学生納付金収益	5,589	5,661	72	
附属病院収益	26,033	27,752	1,719	
受託研究・寄附金等収益	3,858	4,300	442	受託研究費等の受入の増加
その他収益	2,211	3,644	1,432	補助金の受入の増加
経常収益 計：	50,193	54,149	3,956	
経常利益（△経常損失）	△ 141	984	1,125	
臨時損失	24	25	1	
臨時利益	1	0	△ 1	
当期純利益（△当期純損失）	△ 164	959	1,124	
前中期目標期間繰越積立金取崩額	0	-	△ 0	
目的積立金取崩額	417	82	△ 335	目的積立金の執行による減少
当期総利益（△当期総損失）	253	1,041	788	貸借対照表の当期末処分利益と一致します

※百万円未満四捨五入のため、合計は一致しない場合があります。

【経常費用について】

令和7年度の経常費用は、前年度比28.3億円増の531.7億円となっています。

主な増加要因

- ・注射薬費、その他業務委託費の増加による診療経費の増加が11.4億円
- ・人事院勧告の準拠に伴う人件費の増加が8.1億円
- ・奨学費の増加に伴う教育経費の増加が5.6億円

【経常収益について】

令和7年度の経常収益は、前年度比39.6億円増の541.5億円となっています。

主な増加要因

- ・患者数の増加及び高額医薬品適用の増加等による附属病院収益の増加が17.2億円
- ・補助金の受入の増加等によるその他収益の増加が14.3億円

令和7年度の当期総利益は10.4億円となっており、文部科学省への申請のうえ、令和8年度以降、目的積立金として使用予定です。



キャッシュ・フロー計算書の概要

■キャッシュ・フロー計算書とは

一会計期間における国立大学法人の資金（キャッシュ）の収支状況について、一定の活動区分（業務活動・投資活動・財務活動の3区分）に分類して示したものです。



（単位：百万円）

主な増減理由

	令和6年度	令和7年度	増減額
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	3,686	5,303	1,618
原材料等支出	△ 21,088	△ 22,296	△ 1,207
人件費支出	△ 23,827	△ 25,298	△ 1,471
その他の業務支出	△ 913	△ 975	△ 62
運営費交付金収入	12,195	13,236	1,040
学生納付金収入	5,028	4,536	△ 493
附属病院収入	26,126	27,467	1,341
受託研究・補助金・寄附金収入	5,141	7,621	2,480
その他収入	859	893	35
預り金の増加（または減少）	165	119	△ 46
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,210	△ 1,472	1,738
有価証券の取得による支出	△ 100	△ 124	△ 24
有価証券の償還による収入	500	200	△ 300
定期預金等の預入による支出	△ 22,300	△ 29,500	△ 7,200
定期預金等の払戻による収入	20,300	30,800	10,500
その他投資による支出	△ 0	△ 0	△ 0
その他投資による収入	0	-	△ 0
有形固定資産等の取得による支出	△ 3,211	△ 3,917	△ 706
有形固定資産等の売却による収入	1	0	△ 1
施設費による収入	1,563	971	△ 592
その他	38	98	60
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,432	△ 805	627
学位授与機構債務負担金の返済支出	△ 394	△ 363	31
長期借入金の借入による収入	480	1,045	566
長期借入金の返済による支出	△ 838	△ 842	△ 5
リース債務等の返済による支出	△ 640	△ 595	45
利息の支払い額	△ 40	△ 50	△ 9
IV 資金増加額（又は減少額）（I + II + III）	△ 956	3,027	3,983
V 資金期首残高	8,108	7,152	△ 956
VI 資金期末残高（IV + V）	7,152	10,179	3,027

附属病院収入及び受託研究等に係る収入が増加しています。

また、人事院勧告の準拠に伴い人件費支出が増加し、診療経費等の増加に伴い原材料等の支出が増加しています。

定期預金等の払戻による収入や定期預金等の預入による支出が増加しています。

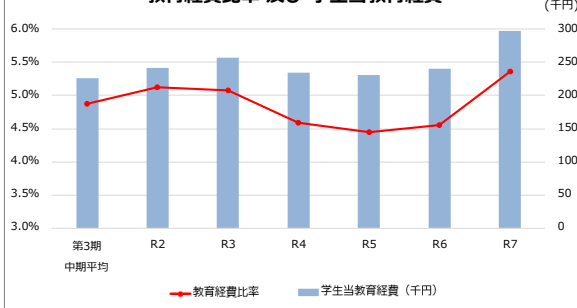
附属病院の施設等の整備に係る長期借入金の借入による収入が増加しています。

※百万円未満四捨五入のため、合計は一致しない場合があります。

※キャッシュ・フロー計算書の「期末資金残高」には定期預金が含まれないため、貸借対照表の現金及び預金とは一致していません。

財務指標による経年比較について

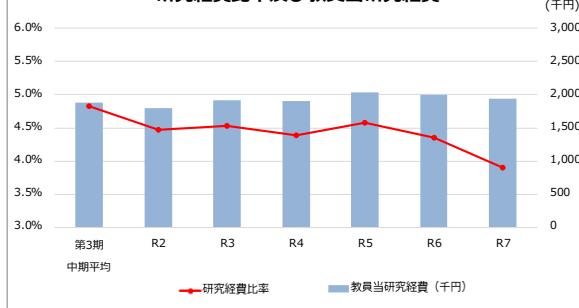
教育経費比率 及び 学生当教育経費



	第3期 中期平均	R2	R3	R4	R5	R6	R7
教育経費比率	4.9%	5.1%	5.1%	4.6%	4.4%	4.5%	5.4%

	第3期 中期平均	R2	R3	R4	R5	R6	R7
学生当教育経費 (千円)	226	242	257	234	231	241	297

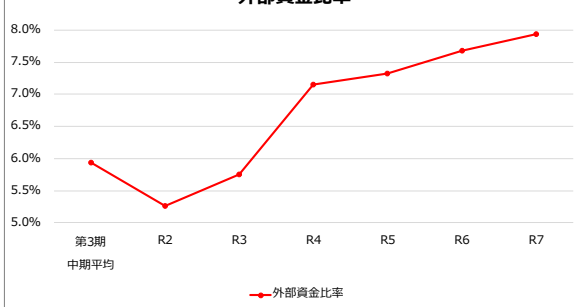
研究経費比率及び教員当研究経費



	第3期 中期平均	R2	R3	R4	R5	R6	R7
研究経費比率	4.8%	4.5%	4.5%	4.4%	4.6%	4.3%	3.9%

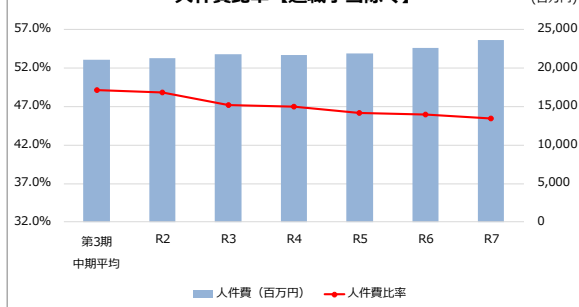
	第3期 中期平均	R2	R3	R4	R5	R6	R7
教員当研究経費 (千円)	1,887	1,794	1,918	1,905	2,041	1,995	1,937

外部資金比率



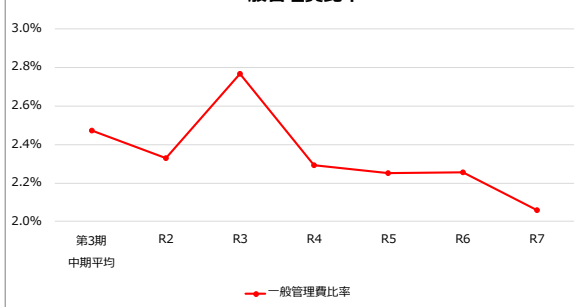
	第3期 中期平均	R2	R3	R4	R5	R6	R7
外部資金比率	5.9%	5.3%	5.8%	7.1%	7.3%	7.7%	7.9%

人件費比率【退職手当除く】



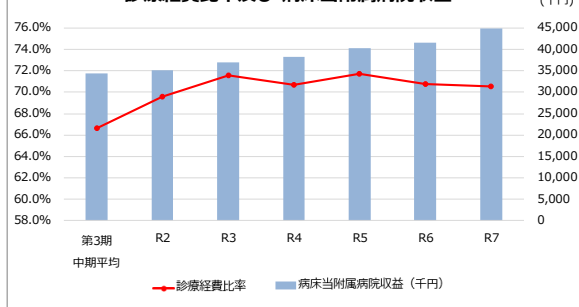
	第3期 中期平均	R2	R3	R4	R5	R6	R7
人件費比率	49.1%	48.9%	47.2%	47.0%	46.2%	46.0%	45.4%
人件費 (百万円)	21,075	21,249	21,758	21,623	21,860	22,617	23,636

一般管理費比率



	第3期 中期平均	R2	R3	R4	R5	R6	R7
一般管理費比率	2.5%	2.3%	2.8%	2.3%	2.3%	2.3%	2.1%

診療経費比率及び 病床当附属病院収益



	第3期 中期平均	R2	R3	R4	R5	R6	R7
診療経費比率	66.6%	69.6%	71.6%	70.7%	71.7%	70.8%	70.5%

	第3期 中期平均	R2	R3	R4	R5	R6	R7
病床当附属 病院収益 (千円)	34,469	35,194	36,913	38,258	40,347	41,586	44,833

財務指標		計算式	
	判断 *1		
教育経費比率	↑	活動性	教育経費比率（％）＝教育経費÷業務費×100
学生当教育経費	↑		学生当教育経費（千円）＝教育経費÷学生実員
研究経費比率	↑		研究経費比率（％）＝研究経費÷業務費×100
教員当研究経費	↑		教員当研究経費（千円）＝研究経費÷教員実員
診療経費比率	↓	収益性	診療経費比率（％）＝診療経費÷附属病院収益×100
病床当附属病院収益	↑	収益性	病床当附属病院収益（千円）＝附属病院収益÷病床数
外部資金比率	↑	発展性	外部資金比率（％）＝外部資金収益÷経常収益×100
人件費比率	↓	効率性	人件費比率（％）＝人件費（退職手当除く）÷業務費×100
一般管理費比率	↓		一般管理費比率（％）＝一般管理費÷業務費×100

*1 ↑高い方が望ましい、↓低い方が望ましい

活動性

教育研究活動が適正な水準で実施されているか

教育経費比率：教育経費が大学の業務費に占める割合であり、大学の業務における教育の比重を判断する指標
 研究経費比率：研究経費が大学の業務費に占める割合であり、大学の業務における研究の比重を判断する指標
 学生当教育経費：学生1人あたりの教育経費であり、大学における教育活動の活発さを判断する指標
 教員当研究経費：教員1人あたりの研究経費であり、大学における研究活動の活発さを判断する指標

効率性

経営が効率的に実施されているか

人件費比率：人件費が大学の業務費に占める割合であり、人件費の削減計画等に基づく効率的な運営がされているかどうかを示す指標
 一般管理費比率：主たる業務とされる教育研究以外の管理運営に係る経費と事業経費との割合であり、効率的な運営がされているかどうかを示す指標

発展性

多様な資金（外部資金）を確保して大学としての財源を安定させているか

外部資金比率：経常収益に対する外部から獲得した収益の比率であり、大学の外部資金による活動状況及び収益状況を判断する指標

収益性

自己収入について、経費に見合う収益確保がなされているか

診療経費比率：附属病院収益に対する診療経費の比率であり、附属病院の収益性を判断する指標
 病床当附属病院収益：病床1床あたりの病院収益であり、附属病院における収益性を判断する指標



【お問い合わせ先】

**国立大学法人愛媛大学
財務部財務企画課決算チーム**

**〒790-8577
松山市道後樋又10番13号
TEL : (089) 927-9062
FAX : (089) 927-9093
E-mail : bunseki@stu.ehime-u.ac.jp**